



年間第 3 主日 (ルカ 1:1-4;4:14-21)

私たちもイエスのことばの証言者になれる

年間第 3 主日 C 年です。イエスが会堂で係の者から渡された聖書の巻物はイザヤ書でした。預言者が預言した出来事が、今日の前にある。これが今週のメッセージだと思います。

教皇フランシスコがはっきりと 11 月下旬の訪日を言葉にしました。10 ヶ月くらいの期間しかありませんが、いよいよ待望の教皇様来日が実現します。38 年前に直接お目にかかった人も、事情があつてお目にかかれなかった人も、今回はその機会を逃さないようにしましょう。

私たちは教皇様をどのように意識するのでしょうか。ほとんど意識しないかも知れません。もちろん、ミサの中では毎日名前を呼んでいますので、賢い方々はそこで意識するでしょう。そのほかには、教皇様を身近に感じるのはいつでしょうか。

そうなるのが難しいかも知れません。いくつか様子をうかがえるものを紹介します。教皇様は毎週何かしらのメッセージをバチカンの広場で発しておられます。それが伝わってくるのは「カトリック新聞」という全国紙です。カトリック新聞は毎週発行されていて、よく教皇様の声を取り上げています。いつでも申込は受け付けます。声をかけてください。

また、教皇様は全世界に重要な指針を示すために、さまざまな文書を発表します。なかでも使徒的勧告や回勅は、その一言が世界全体に考えさせたり行動を促したりするので重要です。これまでに「福音の喜び」とか「ラウダート・シ (ともに暮らす家を大切に)」さらに「愛の喜び」新しいのでは「喜びに喜べ」などです。どれも温かみあふれる、今の時代に必要とされるメッセージです。日本語訳は案内所にも置いてありますから、手に取って見たら良いと思います。

前任者で名誉教皇となられたベネディクト 16 世に、皆さんあまり親近感がないかも知れません。けれども教皇文書は光るものがありました。今もその輝きは失っていません。「毎日のミサ」という書物を注文している人はよくご存じでしょう。

このように現代において、教皇様が身近に感じられる場所は、まずは使徒的勧告や回勅からです。なぜなら、教皇様にはまずお目にかかれることがないためです。文書ですら、圧倒的な存在感を示す方が、目の前においでになったらどうでしょう。私たちは運良くその瞬間を目にするのです。

与えられた福音朗読は同じことを述べています。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」

これが当時会堂に集まった民衆にとってどんなに恵み深い言葉であったか、推して知ることができるでしょう。巻物に記された神のことばだけでも喜びの知らせですが、この喜びの知らせが実現したと目の前で語るイエスを見ているのです。

イエスはこの日の出来事を皮切りに、有言実行します。捕らわれている人に解放を告げます。法に背き、見える牢屋に入れられている人だけではありません。見えない牢屋に捕らわれている人にも、イエスは解放を告げるのです。目の見えない人もそうです。「見える」と言っている人も、この世の価値観で目が曇り、神の前に価値あるものが見えなくなっている人もいます。イエスだけが、これらの人に視力の回復を与えることができます。

現代社会で圧迫されている人は、さらに複雑、巧妙に圧迫を受けていることでしょう。見えない方法で、隠れた仕方で圧迫されている人にも、巻物の文字だけではなく、イエスの存在が、「あなたはわたしを信じてくれた。だからあなたは今、この時から自由になった」と理解するのです。聖書の文字、読み上げられた言葉だけでなく、今ここにおられるイエスが、恵みの保証となってくださるのです。

私たちも、証言者となる必要があります。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した。」イエスが私たちのうちにおられて、このように語ってくださった。私たちはイエスの約束を土台にして生きています。このように、証言する人になって欲しいのです。

罪に縛られ、捕らわれている人が、赦しの秘跡を受けて解放されます。自分の命を自分で救えない私たち、洗礼の秘跡は永遠の命を、神の子の身分を保障してくださり、見えない未来を見えるようにしてください。

聖体の秘跡という神の子羊の食卓に招かれ、どんな圧迫の中でも一人ひとりが大切にされることを体験します。私たちが秘跡に養われて生きていくことを土台にしているなら、だれもがイエスのことばの証言者になれるのです。

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した。」私たちにその気があれば、イエスは現代においても私たちという巻物を人々の前で開いて、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と証明することができるのです。